

令和3年度デマンドサイドマネジメント表彰において受賞された皆様方におかれましては、日頃から電力負荷平準化や省エネルギーに資するシステムの開発・普及に大きな貢献をされており、心から敬意を表しますとともに、お祝い申し上げます。

昨年10月に菅総理が「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、更に今年4月には2030年度における我が国の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦していくことを表明しました。

脱炭素社会の実現のためには、徹底した省エネルギーの推進に加えて、非化石エネルギーの導入拡大に向けた取組が必要です。

足下では、エネルギーの需給構造に変化が生じています。太陽光発電等の変動再エネの増加や分散型エネルギーの拡大などの「供給の変化」、スマートメーターの普及やAI・IoTの導入などの「技術の変化（デジタルイゼーション）」、電力システム改革やFIT制度の導入などの「制度の変化」といった変化です。

これら3つの変化を踏まえ、需要側において、「単に減らす省エネ」の深掘りに加えて、非化石エネルギーの導入拡大や電化等の「需要の高度化」、供給側における非化石エネ拡大やデジタル化等を踏まえた「需要の最適化」、系統の安定維持のための需要サイドの「レジリエンスの強化」を強力に推進していくことが必要となっています。

このような中で、ディマンドレスポンス等の電力需要の最適化に貢献する優れたヒートポンプ機器やシステムの表彰を通じて、これらの機器・システムの一層の普及及び社会への啓発を図っていくことは大変有意義なものです。今回受賞された皆様方が、取組を牽引していくことを願ってやみません。

最後に、今回受賞された皆様方、そして一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターの益々のご活躍とご発展を祈念するとともに、来年度も、さらに意欲的な取組が出てくることを期待します。

令和3年7月1日

資源エネルギー庁 省エネルギー課長 江澤 正名